

## 京都御所南「藤野家住宅」一般初公開 京町家の滅失に警鐘

2024/11/25 12:05 日本経済新聞電子版 531文字

京都市内の閑静な住宅地である御所南に位置する通常非公開の京町家「藤野家住宅」

(国登録有形文化財)は23日、初のオープンデー(一般公開)を開催した。玄関を兼ねた茶室、待合を備えた前庭、上客用の2階座敷など数寄屋風の意匠を取り入れた瀟洒(しょうしゃ)なたたずまいが公開され、訪れた市民や観光客らが熱心に見入っていた。

約100年前の1926年(大正15年)に個人の住居として建てられた。通りに面して高い塀を構える「大塀造(だいべいづくり)」の京町家の秀作として知られる。お茶会など地域の文化活動の会場として貸し出したり京都市のキャンペーン事業で特別公開したりすることはあったが、施設単独での一般公開は初めてという。

一般財団法人藤野家住宅保存会の藤野正弘理事長(藤野家当主)は「年間約800軒、1日あたり約2軒の京町家が消えていき、現在はもっとスピードが加速しているが、それでいいのか。寺社だけでなく町並みも含めて京都を維持していこうと考え、このイベントを開催した」と話している。

京都市が実施した「京町家まちづくり調査」によると、2009年度に4万7735軒あった市内の京町家は16年度に4万146軒と、調査不能などの1987軒を除いても、7年間で5602軒が滅失した。



藤野家住宅の2階座敷は数寄屋造りで当時の大工や職人の技を間近に見ることができる(23日、京都市)



藤野家住宅は通りに面して高い塀を構える「大塀造(だいべいづくり)」の京町家の秀作として知られる(23日、京都市)



藤野家住宅保存会の藤野正弘理事長（手前中央）と関係者のみなさん（23日、京都市）

京町家は年間800軒の猛スピードで滅失	
2009年度時点	47735
2016年度残存	40146
滅失	5602
その他（調査不能など）	1987

(注) 軒、京都市「京町家まちづくり調査」

許諾番号30101588 日本経済新聞社が記事利用を許諾しています。

本サービスで提供される記事、写真、図表、見出しその他の情報（以下「情報」）の著作権その他の知的財産権は、その情報提供者に帰属します。  
本サービスで提供される情報の無断転載を禁止します。  
本サービスは、方法の如何、有償無償を問わず、契約者以外の第三者に利用させることはできません。  
Copyrights © 日本経済新聞社 Nikkei Inc. All Rights Reserved.